

様式第6号

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和 7年 3月31日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市佐土原町下田島20527-4
名 称	広瀬北小学校区地域づくり協議会
代表者の氏名	会 長 岩 本 武 尚
電話番号	0985-73-1159

令和6年5月28日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の決定により、関係書類を添えて報告書を提出します。

添付資料

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) その他

(様式第6号)

令和6年度 事業実施報告・収支決算書

佐土原地域自治区
広瀬北小学校区地域づくり協議会

1 総括

当初計画していた事業については、新型コロナウイルスの勢いが徐々に収束してきたことで最大のイベントである「第19回ひろきた元気フェスタスポーツ大会」を始め大部分の事業を実施することができました。

5回目となるイルミネーション事業では、竹とうろうのマドの部分に北小児童クラブの生徒に絵を描いてもらったり、ツリーの数を増やしたりしたことで地域住民の方から、きれいだった、来年も楽しみにしていますなど高い評価を得ました。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差	備 考
基礎交付金	1,571,000	1,571,000	0	
繰越金	296,079	296,079	0	
負担金	0	3,900	3,900	
合 計	1,867,079	1,870,979	3,900	

(2) 支出の部

分野	事 業 名	実施年数	予 算	決 算	差	備 考
防	安全・安心のまちづくり推進事業	19年目	180,000	127,846	▲ 52,154	
環	環境整備推進事業	19年目	100,000	78,992	▲ 21,008	
再	ふるさと学習推進事業	17年目	200,000	182,671	▲ 17,329	
〃	地域の元気と絆を深める事業	19年目	387,079	459,824	72,745	
健	健康とスポーツ交流事業	18年目	110,000	128,601	18,601	
福	高齢化対策・福祉に係る事業	9年目	20,000	1,925	▲ 18,075	
教	子育て支援事業	18年目	120,000	96,216	▲ 23,784	
他	地域紹介・広報事業	19年目	300,000	294,930	▲ 5,070	
他	事業推進連携強化事業	19年目	180,000	140,416	▲ 39,584	
他	人材育成事業	13年目	20,000	1,925	▲ 18,075	
他	イルミネーション事業	5年目	250,000	187,062	▲ 62,938	
繰 越 金			0	170,571	170,571	
合 計			1,867,079	1,870,979	3,900	

3 実施報告

[1] 防犯・防災に係る事業

事業名	安全・安心のまちづくり推進事業	実施年数	19年目												
事業期間	開始：平成17年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 安全、安心なまちづくり 防災意識が高く、災害に強いまち 小中学生の通学路における危険箇所の改善及び見守り活動支援														
目 的 (期待される効果)	防災訓練や通学路の危険箇所の改善等を通して、地域の安全・安心なまちづくりを推進する。 見守り活動の継続														
事業内容・手段	◆開催時期：令和6年4月～令和7年3月まで ◆場 所：佐土原総合文化センター、支所、広瀬北小学校等 ◆内 容： ①子ども見守り活動推進連絡会議(参加者45名：スタッフ含む) 令和6年6月19日(水) ・令和6年度危険箇所の改善事例と進捗状況について ②子ども見守り隊感謝集会(参加者623名：スタッフ含む) 令和6年12月15日(日) ・場 所：広瀬北小学校、体育館 ・子ども見守り活動に対しての感謝集会 ・感謝の手紙を児童から見守り隊代表者へ・協議会よりお礼品を進呈 ・参加対象者：各地区の見守り隊代表、北小学校児童代表、職員、地域づくり協議会 ③安全・環境パトロール(参加者10名：スタッフ含む) 令和6年6月/12月・年2回実施 ・北小校区内14地区の通学路などの危険箇所点検 6/29(土)、12/2(月)実施 ④防災学習会(参加者34名：スタッフ含む) 令和6年9月7日(土) テーマは、 ・佐土原町の防災の歴史 ・マイ防災行動計画書作成について ・非常食について 講師：気象防災アドバイザー 濱川秀一氏 防災士 木村英之氏 ⑤安全・安心のまちづくり実行委員会(参加者38名：スタッフ含む) 令和6年7月17日(水)、11月14日(木)実施 ・場 所：佐土原総合文化センター ・自治会長・関係部署(学校、警察、宮崎市役所等)との連携を														
事業費	127,846円														
対 象 者	地域住民 北小関係者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>660人</td><td>650人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>90人</td><td>87人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>750人</td><td>737人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	660人	650人	スタッフ	90人	87人	合 計	750人	737人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	660人	650人													
スタッフ	90人	87人													
合 計	750人	737人													
住民の声(アンケートの結果等)	・危険箇所の改善活動は、少しずつであるが確実に成果をあげている。 ・5回目の防災学習会(防災講話)では、佐土原町の災害の歴史、避難訓練の仕方、マイ防災行動計画書の作成それに非常時の保存食など等学んだ。 ・防災、防犯等住民の安全安心に対する意識が年々高まってきた。 ・多くの方から「あいさつ運動月間」(4月、9月)をやって良かった、継続してくださいと。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項			評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	住民から防災活動をもっと取り組んでほしいとの意見が多くその声を生かすようにしている。	広報	⑤事業の周知	A	A	あいさつ運動や通学路の危険箇所改善などについては、各自治会に回覧文書など配布し周知。		
	②住民の参加	A	A	見守り活動では子供見守り隊がまだ主であるが、PTA関係者も徐々に増加。防災学習会の参加者も年々増加。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	通学路の危険箇所などについては、学校や各自治会と連絡を取り情報共有に努め問題点の対策、解決にあたっている。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	当協議会では、安全・安心の活動は住民すべての優先課題として取り組んでいるので妥当。			⑦住民の満足度	A	A	安全・安心の事業活動のおかげで児童が事故なく通学できている、いつまでも継続してほしいとの意見が多い。	
	④各種団体との連携	A	A	小中学校の通学路の危険箇所改善や安全パトロール等は、北小、関係機関、交番などと連携して実施。	事業継続の必要性			有・無			
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ①毎年、14地区から集めた危険箇所改善要望書を関係機関（県や市の建設課、交番等）へ提出し、進捗状況などを把握している。ちなみに令和6年3月末危険箇所改善の対策完了は、135件、72%であった。 ②防災学習について・・・今年は、気象防災アドバイザーに佐土原町の災害の歴史、避難計画、それにマイタイムラインについて詳しく講義してもらった。年々講義内容が濃くなり参加者も増加。 ③4月と9月にのぼり旗を立て「あいさつ運動」を実施。元気な声であいさつする児童やお年寄りの数が増えてきた。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済	
		<意見への対応>									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済	
		<意見への対応>									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

〔 2 〕 環境・地域再生に係る事業

[illegible]

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	住みよい地域社会にするため自治会、部会等の意見を聞きながら業務内容を計画している。	広報	⑤事業の周知	A	A	行事毎に回覧文書を作成し各地区や小学校等へPR。広報誌「ひろきた」を年3回全戸配布し、活動報告している。3年目のホームページでも活動案内及び報告。
	②住民の参加	B	B	ウミガメ学習会は、人気があり参加者が多かった。竹とうろうづくりには、もっと参加してほしいかった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	環境保護や自然に対する住民の意識や関心を高めることに役立った。参加者をもう少し増やしていきたい。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自然と共生し快適に暮らせるまちづくり事業として取り組んでおり、事業の活動は、妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	2回目となる竹とうろうづくりは、講師の指導もよく親子連れで来られた参加者から楽しめたと好評でした。
	④各種団体との連携	A	A	各自治会、地域の環境団体、PTA等と連携して事業を進めている。	事業継続の必要性			有	無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 4回目のウミガメ学習会では、2人の講師からウミガメのふ化や佐土原の野鳥について詳しく説明してもらいました。講義を通し受講者の方は、ふるさとの自然の豊かさや自然をもっと大切にしなければならないということが学べたのでないかと思います。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未・済
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[3] 地域再生に係る事業

事業名	ふるさと学習推進事業	実施年数	17年目												
事業期間	開始：平成19年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 郷土を誇りに思い、心豊かな人が育つまち														
目的 (期待される効果)	ふるさとの文化や歴史などを学ぶ勉強会やウォーキングを通し、郷土愛や心豊かな人が育つ素地を作る。														
事業内容・手段	◆開催時期：令和6年4月～令和7年3月まで ◆内 容： ①バイオ発電と日本人の食について学ぶ（参加者25名：スタッフ含む） 令和6年7月27日（土） ・場 所：都城市 ・内 容：都城クリーンセンターでは、家庭から出るごみを燃料にして発電、霧島酒造の発電施設では、焼酎の搾りかすを燃料にしていることを学んだ。 ②ぶら～り佐土原散歩（参加者28名：スタッフ含む） 令和6年11月9日（土） ・場 所：佐土原城址及び佐土原地区交流センター ・内 容：城址では、講師（金丸武司氏 文化財課）から佐土原城にまつわる話や交流センターでは、希望者だけ鎧や兜を装着、その後皆で外庭に出て手裏剣投げなど楽しみました。 ③門松づくり（参加者18名：スタッフ含む） 令和6年12月14日（土） ・場 所：久峰地区交流センター ・内 容：講師の指導でまず一人一人土台作り（器）、次は土台に竹や松を飾りつけ、最後は花や葉など思い思いにさして門松が完成、良い作品ができた喜んでいました。 ④少し遅めのご近所の三社参り（参加者20名：スタッフ含む） 令和7年2月15日（土） ・場 所：久峰観音、廣瀬神社、白玉稻荷明神 約5.5kmのコース ・内 容：参加者は、神社までの起伏の激しい坂道を励まし合いながら登りました。途中、参加者から神社の歴史などの説明もあり楽しい1日になりました。														
事業費	182,671円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>25人</td><td>27人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>66人</td><td>70人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>91人</td><td>97人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	25人	27人	スタッフ	66人	70人	合 計	91人	97人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	25人	27人													
スタッフ	66人	70人													
合 計	91人	97人													
住民の声（アンケートの結果等）	・ぶら～り佐土原散歩で、山上に遺構として残る井戸は、全国的にも珍しいとか天守台に残る石は、細島港付近から運ばれてきたものだと説明があり、参加者からもう一度ゆっくり訪問してみたいとの話が出ていました。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項			評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域住民の意見や要望を把握し計画することが重要。 他部会の意見を聞きながら部会が中心となり住民の意見を集約。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	行事毎に回覧文書を作成し各自治会へ、班回覧や全戸配布で周知した。 小中学生の参加を更に呼びかける。	
	②住民の参加	A	B	バイオ発電やぶら〜り佐土原散歩等回覧などで何度も呼びかけたので参加者が少し増えた。		⑥課題解決への作用	B	B	しめ飾りづくりを門松づくりに変更。最初迷いもあったが準備や材料揃えなどなんとか間に合わせることができた。		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	ぶら〜り佐土原散歩での佐土原城についての説明や門松作りでは、貴重な経験もでき取組みとしては妥当。		⑦住民の満足度	A	A	初の門松づくりは、準備や材料揃えなど大変な面もあったが、自分で作った物を正月飾りにできるなど満足感も味わえた。		
	④各種団体との連携	A	A	門松づくりやぶら〜り佐土原散歩では、部会が中心となり、材料揃えなどするため地元の方たちや自治会などと相談、連携しました。	事業継続の必要性				有 ・ 無		
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 部会員の要望で以下の新しい事業に変更しました。一つは、しめ飾りづくりを門松づくりに。以前はワラの準備等で大変だったのが今回は、一部を市販の造花にしたことで簡単に制作できるようになりました。 次は、鳥の環境活動をぶら〜り佐土原散歩や少し遅めのご近所の三社参りに変更。 講師から佐土原城についてのいろいろ話や三社参りでは、ウォーキングを楽しむことができました。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>							対応	未 ・ 済	
		<意見への対応>									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>							対応	未 ・ 済	
		<意見への対応>									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

3 実施報告

[4] 地域再生に係る事業

事業名	地域の元気と絆を深める事業	実施年数	19年目
事業期間	開始：平成17年度	終了： 年度	
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 活気があふれ、いきいきと働けるまち 地域住民の健康で明るい街づくりを推進する。		
目 的 (期待される効果)	地域住民の幅広い交流の場を設定し、支え合いと元気を大切にして 健康で楽しい地域づくりの意識高揚を図り、絆を深める。		
事業内容・手段	①第19回「ひろきた元気フェスタ」スポーツ大会 ※実行委員会と参加人数 第1回実行委員会 9/18 21人 第2回実行委員会 10/17 26人 第3回実行委員会 11/14 21人 第4回実行委員会 12/19 27人 		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	長い間でできなかった元気フェスタスポーツ大会を望む住民の声が強かった。	広報 事業の効果	⑤事業の周知	A	A	スポーツ大会の回覧文書を作成し各自治会などへ班回覧や全戸配布した。		
	②住民の参加	B	A	実行委員会や広報誌等で何度も参加を呼びかけたことで親子連れの参加目立った。 ただ働き盛りの人の参加が少なかった。		⑥課題解決への作用	B	B	児童や高齢者の参加は、多かったが働き盛りの世代の参加が少なかったのもっと増やすにはどうすべきか対策を考えたい。		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	多くの人を集めて楽しめるスポーツ大会は、協議会の活動として妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	久しぶりに地区の人に会えてよかったとか子供たちに触れ合えてよかったなどの意見があった。		
	④各種団体との連携	A	A	14地区自治会及びPTA、小中高関係者等とも連携して事業を進めた。		事業継続の必要性				有・無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・6年ぶりのスポーツ大会であったが、事前に役割分担もしっかり決め楽しく実施できた。 ・お菓子取り競技やせんぐまきなど参加者の多いものは、年少者、大人、高齢者と分けて行ったのだけが人も出ずに済んだ。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済		
		<意見への対応>									
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応	未・済		
		<意見への対応>									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[5] 健康づくりに係る事業

事業名	健康とスポーツ交流事業	実施年数	18年目												
事業期間	開始：平成18年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 活気があふれ、いきいきと働けるまち														
目的 (期待される効果)	スポーツを通し、より多くの人との交流の機会を設けて、支え合いを大事にし元気で楽しく暮らせるまちづくりを目指す。														
事業内容・手段	①城山ウォーキング 令和6年11月9日（土） ・場 所 往復4キロのコース 鶴松館 ⇒ 大手道他山道 ⇒ 山上、天主台などの遺構 ⇒ 鶴松館 ・参加者 一般12名、部会員・役員14名 合計28名（スタッフ含む） ・講 師 金丸 武司氏、吉田 玖美子氏（文化財課） ・内 容 ・佐土原城址までのウォーキング。 ・途中、講師から要所、要所で遺構として残る本丸や天守台などのことを学びました。 ②地区交流グラウンドゴルフ大会 令和6年11月30日（土） ・場 所：久峰運動公園 ・参加者：86名（スタッフ含む） ・内 容：地区交流グラウンドゴルフ大会 参加チーム：15チーム 個人参加2人 ・成績 ：優勝 春日台 B 2位 春日台 D 3位 春日台 A														
事業費	128,601円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>93人</td><td>76人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>21人</td><td>20人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>114人</td><td>96人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	93人	76人	スタッフ	21人	20人	合 計	114人	96人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	93人	76人													
スタッフ	21人	20人													
合 計	114人	96人													
住民の声（アンケートの結果等）	・佐土原城址までのウォーキング。以外にも1度も行ったことのない人が多かった。講師が、佐土原城について知らないこと等いろいろ説明して下さり大変良かった。 ・グラウンドゴルフ大会は、今年初めて個人での参加を呼びかけてみたのだが、十分に伝わらず2名の参加だった。 来年度はもっと早くから個人参加を呼びかけるようにしたい。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	昨年度から地区対抗ではなく地区交流グラウンドゴルフ大会に変更した。地域活性化のためグラウンドゴルフ大会を継続してほしいとの強い要望があった。	広報	⑤事業の周知	A	A	行事毎に回覧文書を作成し、各自治会へ班回覧や全戸配布した。
	②住民の参加	B	B	グラウンドゴルフの参加者がコロナや高齢化のため年々減少してきた。今後、個人での参加など検討中。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	地域ごとの参加メンバーの交代があまり見られない。メンバーの高齢化が進んでいる。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	ウォーキングやグラウンドゴルフは、地域の人同士がかかわり絆を深めたりできるので妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	城山ウォーキングや地区交流グラウンドゴルフ大会を通し、住民同士の絆が深まり満足が得られた。
	④各種団体との連携	A	A	スポーツを通して各自治会との連携など深めることができた。		事業継続の必要性			有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ グラウンドゴルフ大会の名称を地区対抗から地区交流に変更して2年目。人をもっと集めるため個人参加も認めるようにしたのだが今回は、結果があまり出なかった。 来年は、内容などもっと見直したりして参加者を増やしていきたい。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[6] 高齢化対策・福祉に係る事業

事業名	高齢化対策・福祉に係る事業	実施年数	9年目
事業期間	開始：平成28年度	終了： 年度	
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 共に支えあい、高齢者も安全で安心して暮らせるまち 認知症予防の健康講座の継続		
目的 (期待される効果)	高齢化が進み認知症患者が増加してきているので、講座を通し正しい認知症の知識を身につけたり、予防策なども学ぶ。		
事業内容・手段	◆第9回健康講座 令和7年2月27日（木） ・場 所：文化センター(研修室) ・講 師：認知症キャラバンメイト 浜砂貴美子氏他1名 2人 ・参加者：一般 2人、役員・部会員 12人 計16人 ○「認知症を学びみんなで考える」の講義内容 〈抜粋〉 ・認知症は、誰にとっても身近なこと、わがごととして考えよう！ ・認知症になっても住み慣れた所で希望をもって暮らしていくためには ・認知症の人と生きる家族・・・悩んでいるのは自分だけでない。 		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	認知症や介護について、自分や家族のために、知識や具体的な対応策を身につけたい住民は多い。	広報	⑤事業の周知	A	A	回覧文書を作成し、各自治会へ班回覧などをした。
	②住民の参加	B	B	今年も講座の準備不足で住民の参加が、いまいちだった。また高齢者の参加を増やすため会議日時の変更を検討。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	講座のあとのアンケートなどから認知症や介護などの理解があったと判断しました。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	高齢化対策として認知症や介護の問題は誰にも避けて通れないため妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	講師から認知症予防などを含め丁寧な説明があり理解を深めることができました。
	④各種団体との連携	A	A	部会と包括支援センターなどと何度も事前の打合わせをした。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 講師から認知症予防などについて詳しく話してもらい大変良かった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[7] 地域教育に係る事業

事業名	子育て支援事業	実施年数	18年目												
事業期間	開始：平成18年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 共に支えあい、安全で安心して暮らせるまち														
目 的 (期待される効果)	学校やP T Aと連携して地域住民全員で子どもの健全育成を図り、将来の 地域人材育成に役立たせる。														
事業内容・手段	①北小ミシン学習指導支援（参加者：5年生3クラス、120名） ◆開催時期：令和6年11月7日（木）・8日（金）・11日（月） ◆場 所：広瀬北小学校（家庭科室） ◆内 容：ミシンの学習指導支援 うち指導者21名 ナップサック作り ②北小ミシン学習指導支援（参加者：6年生3クラス、130名） ◆開催時期：令和6年12月2日（月）・3日（火）・4日（水） ◆場 所：広瀬北小学校（家庭科室） ◆内 容：ミシンの学習指導支援 うち指導者33名 エプロン作り ③らくだ道ふれあいパーク（参加者：児童 保護者 310名） ◆開催時期：令和6年12月15日（日） ◆場 所：広瀬北小学校（各教室、体育館など） ◆内 容：講師が各学年の児童を指導（下記遊び等） うち指導者35名 1年生：昔遊び 3年生：神代ゴマ														
事業費	96,216円														
対 象 者	地域住民 北小関係者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>471人</td><td>830人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>89人</td><td>110人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>560人</td><td>940人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	471人	830人	スタッフ	89人	110人	合 計	560人	940人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	471人	830人													
スタッフ	89人	110人													
合 計	560人	940人													
住民の声（アン ケートの結果等）	・らくだ道ふれあいパークやミシン学習で、子どもたちと 触れ合うことにより元気もらった。（指導員） ・高齢の指導員には、事前の打ち合わせが必要と感じた。 ・指導員の中にP T Aの若い方が増えてきた。 ・折紙4枚でこまを作りました。難しかったけど上手に 折れました。（1年生の感想文から）														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年	前年	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	学校からの要請に対し、学校、協議会、地区住民との連携はよく取れている。	広報	⑤事業の周知	A	A	学校から要請のあるミシン学習などに対し、部会員や住民にボランティアを募集。
	②住民の参加	A	A	らくだ道ふれあいパークや5、6年生のミシン学習を実施。ボランティアをされる方は定着。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	子育て支援として定着。ボランティアの方と仕事内容について十分打合せしたり連絡しあったりしたのでスムーズにできた。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	学校やPTAとの連携事業として今後とも継続したい妥当。準備があるので学校との事前打ち合わせが必要。		⑦住民の満足度	A	A	児童とのふれあいができて大変良かった。
	④各種団体との連携	A	A	学校、PTA、協議会、地区住民との連携はよくできている。	事業継続の必要性				有 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ 今年のらくだ道ふれあいパークでボランティアの要請があったのは、1年生と3年生でした。ミシン学習でも5年生、6年生を対象に協力することができました。 支えてくれたのはボランティア(指導者)の方達です。 温かい指導の下、児童も楽しい思い出がたくさん作ることができたことと思います。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が「未」の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が「済」になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[8] その他の事業

事業名	地域紹介・広報事業	実施年数	19年目												
事業期間	開始：平成17年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 活気があふれ、いきいきと働けるまち														
目的 (期待される効果)	地域活性化を図るため協議会活動の様子を紹介したり各地域の様子を紹介する など情報の共有と連帯意識を高める。														
事業内容・手段	◆発行時期：令和6年4月～令和7年3月 ◆内 容 ①広報誌「ひろきた」の発行 ・66号 令和6年6月 新年度役員、自治会長、民生児童委員紹介、総会内容等 ・67号 令和6年11月 令和6年度上期事業報告他 ・68号 令和7年3月 令和6年度下期事業報告他 *地域情報の取材（年間） *各部会は事業ごとに写真と事業報告 ②地域づくり協議会の広報活動・・・随時 ・地域住民へ各事業の案内 *文書作成と配布 *ポスターの作成と掲示 ③活動報告・・・随時 ・事業活動状況、地域の情報など随時発信 ・事業計画外の活動報告 ④ホームページの管理 ・3年目。ホームページを立上げのは、令和4年8月 内容：広報誌、イベントの案内及び報告など														
事業費	294,930円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>15人</td><td>15人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>45人</td><td>40人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>60人</td><td>55人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	15人	15人	スタッフ	45人	40人	合 計	60人	55人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	15人	15人													
スタッフ	45人	40人													
合 計	60人	55人													
住民の声（アンケートの結果等）	・写真が比較的多く簡潔な説明で分かりやすいという評価がありました。 ・各事業を地域住民へ紹介するなど大きな役割を果たしているとの意見もありました。 ・一部の役員からホームページについてもっと知りたいという意見がありましたので再度勉強会を実施したいと思います。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	協議会の活動を報告したり、紹介する一つの手段である。		⑤事業の周知	A	A	事業ごとの取材を行い、広報誌発行前に数回編集会議を行う。広報誌を年3回、全戸配布し活動報告。3年目となるホームページを使い同様に活動報告。
	②住民の参加	B	B	住民から地域の文化財やニュースなど紹介したいことについて提供を受けている	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	一般の回覧物等が余りに多く広報誌やホームページを見ていない人が少ないのではと感じる。これまで以上に読んでもらうためにより創意工夫が必要
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	広報活動には、いろいろな方法があるが今は協議会の活動を主に報告。今後は各地域のお宝等も紹介。妥当。		⑦住民の満足度	A	A	写真入りの広報誌の発行を楽しみにしている人が増えている。当協議会活動を更に地域住民に伝える工夫が必要
	④各種団体との連携					事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済	
		<意見への対応>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済	
		<意見への対応>							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が「未」の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が「済」になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[9] その他の事業

事業名	事業推進連携強化事業	実施年数	19年目												
事業期間	開始：平成17年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 地域の人が共に支えあい、安全で安心して暮らせるまち														
目的 (期待される効果)	14地区自治会、各種団体、学校、佐土原町5つの地域づくり協議会等との連携を強化し、情報交換等を通して地域づくりの円滑で効率的な取り組みを行う。														
事業内容・手段	◆運営時期：令和6年4月～令和7年3月 ◆場 所：地域づくり協議会事務局・佐土原総合文化センター他 ◆内 容：関係団体、行政等の連帯強化のための諸会合 ①役員会（参加者101名）・・・12回 ②総会（参加者59名） ③運営委員会（参加者42名）・・・4/11（木）、11/14（木） ④合同部会（参加者140名）・・・5/15（水）、9/11（水）、2/10（月） ⑤会長・事務局長会議（参加者74名）・・・6回 ⑥各部会の会合等（参加者30名）・・・部会必要時 ⑦その他関係団体との会合等 ◇地域づくり協議会が主催する関係団体との会合日程を設定、調整する。諸会議の円滑な進行を図り、必要な場合、地域住民が積極的に参加できるようにする。 ◇その会合に要する会議用のお茶などの食料費及び案内のための通信費などを管理する。														
事業費	140,416円														
対象者	地域住民 地域づくり協議会委員等														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>126人</td><td>132人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>320人</td><td>340人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>446人</td><td>472人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	126人	132人	スタッフ	320人	340人	合 計	446人	472人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	126人	132人													
スタッフ	320人	340人													
合 計	446人	472人													
住民の声（アンケートの結果等）	・地域住民が協議会の活動に期待を示すようになってきた。 ・部会員の増加で目立ったのは、特に若いPTA会員。平成29年度43名であったのが令和6年度は、82名に。 ・年初から新型コロナウイルスが、収束し総会など多くの会議の開催が、漸くコロナ前の状態に戻るようになってきた。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	会議の回数を重ねることで地域住民のいろいろな意見を聞く機会も増え住民主体のまちづくりができると考える。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	諸会合は年間スケジュールを作成し関係者へ配布。会合毎にはがき、電話等で案内し周知。事業内容は、広報誌などに掲載。	
	②住民の参加	A	A	新型コロナ等が収束してきたことで多くの会議が開催されることになり、住民の参加も徐々に増えてきた。			⑥課題解決への作用	B	B	地域住民の視点で活動を進めていくことが大切。連携強化するには、更なる強い取組みと各種関係先との連携が必要。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自治会等との連携を強化したことが、協議会の活動を進める上で大きな支えとなった。妥当。				⑦住民の満足度	A	A	住民の活動参加が徐々に増えてきた。参加者は、これまでは、高齢者が目立ったが若いPTA関係者も少しずつ増えてきた。
	④各種団体との連携	A	A	各会議で意見交換を十分行い全員で課題を共有し各種関係先と連携して取り組むことが重要である。		事業継続の必要性				有・無	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞							対応	未・済	
		＜意見への対応＞									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞							対応	未・済	
		＜意見への対応＞									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が「未」の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が「済」になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[10] その他の事業

事業名	人材育成事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	基本目標 郷土を誇りに思い、心豊かな人が育つまち														
目的 (期待される効果)	地域づくり協議会の事業を進めるには、役員・各部会員のリーダーシップと地域づくり活動への住民の積極参加が大事である。 それらの基盤を側面支援するためにリーダー研修を行い、地域の再生と活性化を目指す。														
事業内容・手段	◆「これまでのまちづくりと今後のまちづくりについて」(テーマ) ・日時 令和7年2月7日(金) 9：30～10：00 ・場所 佐土原総合文化センター 研修室 ・参加者 役員・部会員 7名 ・講師 後藤 優奈氏 他支所から3名 合計11名 ・内容 地域のまちづくりが進展してきた一方で 1. 地域まちづくりの人材不足(高齢化・固定化) 2. 地域団体の組織力の低下 3. 地域組織の2重化・重層化などの問題が発生…… 地域まちづくりを持続可能なものとするため ⇒「今後」 ↓ ・令和7年3月末に地域自治区制度の終了 ・地域まちづくりの仕組みの再構築 ※令和7年4月から地域まちづくりが、 「地域まちづくり推進委員会」を中心とした仕組みに変更します。 *講師の説明のあと 支所との意見交換														
事業費	1,925円														
対象者	地域づくり協議会委員														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>0人</td><td>0人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>11人</td><td>10人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>11人</td><td>10人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	0人	0人	スタッフ	11人	10人	合 計	11人	10人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	0人	0人													
スタッフ	11人	10人													
合 計	11人	10人													
住民の声(アンケートの結果等)															

上記支所との意見交換では、新たな事業提案制度などたくさんの意見が出ていた。

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	B	自治会長や役員の意見を聞き、視察地、研修内容等を検討、選定している。	広報	⑤事業の周知	A	A	各自治会長、役員への文書案内。
	②住民の参加	B	B	参加者は、自治会長や役員の希望者を対象にしている。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	協議会として次世代の人材確保が重要課題。先進地の視察研修、意見交換または講習会は課題解決に役立つ。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各自治会や地域づくりを活性化させるためにリーダー研修は、取組として妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	研修の中身について、参加した役員等から有意義であったとの意見が聞かれた。
	④各種団体との連携	B	B	協議会として先進地の良いものを取り入れるには、各種団体等との連携が必要である。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）＞						対応	未・済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が「未」の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が「済」になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[11] その他の事業

事業名	イルミネーション事業	実施年数	5年目												
事業期間	開始：令和2年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 活気があふれ、生き生きと働けるまち														
目 的 (期待される効果)	イルミネーションの飾りつけを行い、点灯させ、佐土原の町なかを活性化させる。														
事業内容・手段	◆竹とうろうやイルミネーション制作 令和6年(以下同じ)9月・・・竹材の切り出し 11月前半・・・竹とうろうなどの加工及び部品付け ・11/18～23・・・竹とうろう、絵文字、イルミネーションの飾りつけ ・11月24日(日)・・・竹とうろう、絵文字、イルミネーションの設置・点灯 点灯期間 11月24日(日)～令和7年1月26日(日) 点灯時間 17時30分～22時30分 ・令和7年1月29日(水)・・・竹とうろう、絵文字、イルミネーションの撤去 ◆5年目、工夫したところ ①竹とうろうのマドの部分に北小児童クラブにお願いし、「モチモチの木」の絵を描いてもらった。あとでマドにその絵を貼り付け ②クジラの絵のイルミネーション制作 ③イルミネーション付きの大ツリーを2本設置。評判が良かったので来年、もう少し数を増やしたい。														
事業費	187,062円														
対 象 者	地域づくり協議会委員														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>10人</td><td>10人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>60人</td><td>55人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>70人</td><td>65人</td></tr></table> ※事業内容に応じて男女別や年代別データ			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	10人	10人	スタッフ	60人	55人	合 計	70人	65人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	10人	10人													
スタッフ	60人	55人													
合 計	70人	65人													
住民の声(アンケートの結果等)	・5回目となるイベント。コロナが収束したことで昨年より家族連れ、若い人、お年寄りなど見物客が増えた。 すごくいい、長く続けてほしい、長く生きていてよかった、などの声。 ・竹とうろうのマドに描かれた「モチモチの木」や2本の大ツリーが とてもきれいでよかった。 ・竹とうろうやイルミネーションの灯りに心が癒された。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項		評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度					本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	5年目。コロナ禍の中で佐土原の町なかを活性化するのに何がいいのかという声から生まれた。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	回覧文書を作成し各自治会に配布、全世帯へ周知した。 3年目となるホームページを使って活動報告。	
	②住民の参加	B	B	年々、竹とうろうづくり、イルミネーションの設置、点灯、撤去等に地域の方の理解や協力が得られるようになった。			⑥課題解決への作用	A	A	佐土原の中心である場所にイルミネーションなどを飾りつけることで、多くの地域住民の心を元気づけたり癒すことができた。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	薄暗かった佐土原駅周辺の町なかを活性化させ、明るくする活動として取り組んでいる。妥当。				⑦住民の満足度	A	A	来年度以降も続けてほしいとの意見が多く聞かれた。
	④各種団体との連携	A	B	佐土原総合文化センター、14地区自治会などと連携しながら事業を進めた。		事業継続の必要性				有	無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・本年度、新たに階段の上に大きなツリーを1本追加した。 ・竹とうろうのマドの部分に北小児童クラブの生徒に「モチモチの木」の絵を描いてもらってマドにその絵を貼り付けた。 ・竹とうろうや絵文字、イルミネーションの灯りが、佐土原の町なかを照らし、まちを活性化させ、住民の心を癒してくれた。 またその灯りは、防犯にも役立った。									
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>							対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	安全・安心のまちづくり推進事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	127,846	
2			
3	合計 (A)	127,846	

(2) 支出の部

番号	科 目	金 額	内 訳														
1	賃金																
2	報償費																
3	旅費																
4	需用費	113,786	<table><tr><td>①子ども見守り隊感謝集会</td><td>60,706円</td></tr><tr><td>タオル(330円×180枚)</td><td>59,400円</td></tr><tr><td>紙袋</td><td>1,306円</td></tr><tr><td>②防災学習会</td><td>27,350円</td></tr><tr><td>お茶(1,925円×2ケース)</td><td>3,850円</td></tr><tr><td>備蓄おにぎり(470円×50個)</td><td>23,500円</td></tr><tr><td>*インク10個</td><td>25,730円</td></tr></table>	①子ども見守り隊感謝集会	60,706円	タオル(330円×180枚)	59,400円	紙袋	1,306円	②防災学習会	27,350円	お茶(1,925円×2ケース)	3,850円	備蓄おにぎり(470円×50個)	23,500円	*インク10個	25,730円
①子ども見守り隊感謝集会	60,706円																
タオル(330円×180枚)	59,400円																
紙袋	1,306円																
②防災学習会	27,350円																
お茶(1,925円×2ケース)	3,850円																
備蓄おにぎり(470円×50個)	23,500円																
*インク10個	25,730円																
5	役務費	10,560	ベストクリーニング(440円×24枚)														
6	委託料																
7	使用料及び賃借料	3,500	車借用代(500円×7台)														
8	工事請負費																
9	原材料費																
10	備品購入費																
11	積立金																
12	合計 (B)	127,846															

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第 7 号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	環境整備推進事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	77,192	
2	負担金	1,800	竹とうろうづくり参加費(300円×6組)
3	合計 (A)	78,992	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費	10,000	講師謝礼 ウミガメ学習会(5,000円×2名)
3	旅費		
4	需用費	53,625	竹とうろうづくり 42,216円 お茶(1,925円×1ケース) 1,925円 ソケット、ラベルシート他 40,291円 *インク・コピー用紙 11,409円
5	役務費	7,480	保険(28円×110名) 3,080円 (ウミガメ学習会80名、竹とうろうづくり30名) ベストクリーニング(440円×10枚) 4,400円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	7,887	電動ドリルレンタル代(3台)
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	78,992	
収支差額 (A) - (B)		0	

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	ふるさと学習推進事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	180,571	
2	負担金	2,100	門松づくり参加費(300円×7名)
3	合計(A)	182,671	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	67,411	①バイオ発電を学ぶ マスク1箱 <u>877円</u> ②ぶら〜り佐土原散歩 <u>11,760円</u> パン(35個)、鯨ようかん(35個) ③門松づくり <u>23,407円</u> お茶(1925円×1ケース) 1,925円 造花・スポンジ等 13,040円 パン、さつま芋他 8,442円 ④三社参り <u>15,375円</u> お茶(1925円×1ケース) 1,925円 おにぎり(22個)、パン(23個) 13,450円 コピー用紙、インク他 <u>15,992円</u>
5	役務費	4,920	保険(28円×75名) 2,100円 (バイオ発電30名、門松づくり20名、 三社参り25名) ベストクリーニング(440円×3枚) 1,320円 ベストクリーニング(500円×3枚) 1,500円
6	委託料	109,840	バス貸切(バイオ発電を学ぶ)
7	使用料及び賃借料	500	車借用代(500円×1台)
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	182,671	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	地域の元気と絆を深める事業
-----	---------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	163,745	
2	繰越金	296,079	
3	合計(A)	459,824	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	430,624	実行委員会 お茶(1,925円×4ケース) <u>7,700円</u> 第19回ひろきた元気フェスタスポーツ大会 <u>366,395円</u> 食糧費 お茶(1,925円×3ケース) 5,775円 スタッフ弁当(700円×35個) 24,500円 景品代 抽選会分(農畜産物等) 194,670円 玉入れ競技分(カップ麺・ジュース) 2,560円 お菓子・パン 39,170円 せんぐまき(お菓子、もち) 99,720円 *配布資料等作成/消耗品 <u>56,529円</u> インク・コピー用紙他 33,836円 ブルーシート(2枚) 14,560円 洗濯ばさみ・石灰他 8,133円
5	役務費	27,200	保険(28円×400名) 11,200円 ベストクリーニング(500円×32枚) 16,000円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	2,000	車借用代(500円×4台)
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	459,824	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	健康とスポーツ交流事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	128,601	
2			
3	合計(A)	128,601	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	112,701	①城山ウォーキング 9,114円 お茶(35本) 2,499円 景品(お菓子、あめ) 4,295円 ガーゼ・リバテープ他 2,320円 ②地区交流グラウンドゴルフ大会 89,745円 お茶(1,925円×3ケース) 5,775円 景品(ラーメン・ジュース) 68,670円 パン(170円×90個) 15,300円 *コピー用紙・インク 13,842円
5	役務費	11,400	保険(28円×140名) 3,920円 (ウォーキング40人、 グラウンドゴルフ100人) ベストクリーニング(440円×17枚) 7,480円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	4,500	用具借用代 2,000円 車借用代(500円×5台) 2,500円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	128,601	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	高齢化対策・福祉に係る事業
-----	---------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	1,925	
2			
3	合計 (A)	1,925	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	1,925	健康講座 お茶(1,925円×1ケース)
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	1,925	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	子育て支援事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	96,216	
2			
3	合計(A)	96,216	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	81,996	①ミシン学習指導 49,925円 お茶(1,925円×3ケース) 5,775円 指導者弁当(69個) 44,150円 ②らくだ道ふれあいパーク 16,931円 お茶(1,925円×2ケース) 3,850円 パン・ジュース(35人分) 11,981円 折り紙・グルースティック 1,100円 *インク・コピー用紙 15,140円
5	役務費	13,220	保険料(28円×95人) 2,660円 (ミシン60人、らくだ道35人) ベストクリーニング(440円×24枚) 10,560円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	1,000	車借用代(500円×2台)
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	96,216	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	地域紹介・広報事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	294,930	
2			
3	合計 (A)	294,930	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	147,980	広報誌印刷 (66, 67, 68号) <u>135,300円</u> 印刷・製本代 (45,100円×3回) *インク7個 <u>12,680円</u>
5	役務費		
6	委託料	120,000	ホームページ管理費 (10,000円×12ヶ月)
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	26,950	シュレッダー1台
11	積立金		
12	合計 (B)	294,930	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	事業推進連携強化事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	140,416	
2			
3	合計(A)	140,416	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費	36,000	費用弁償(3,000円×役員12人)
4	需用費	69,152	食糧費 13,475円 役員会お茶(1,925円×1ケース) 1,925円 運営委員会お茶(1,925円×1ケース) 1,925円 合同部会お茶(1,925円×5ケース) 9,625円 *インク・コピー用紙・封筒他 55,677円
5	役務費	35,264	通信運搬費(はがき、切手) はがき(63円×300枚) 18,900円 " (85円×120枚) 10,200円 切手(84円×60枚) 5,040円 " (26円×5枚) 130円 " (22円×35枚) 770円 " (16円×14枚) 224円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	140,416	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	人材育成事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	1,925	
2			
3	合計 (A)	1,925	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	1,925	研修会 お茶(1,925円×1ケース)
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	1,925	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第7号)

事業別収支計算書

佐土原地域自治区

広瀬北小学校区地域づくり協議会

事業名	イルミネーション事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	187,062	
2			
3	合計(A)	187,062	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	86,920	お茶(1,925円×2ケース) 3,850円 弁当(17個)他 11,848円 イルミネーション器材 71,222円 (ツリーライト2本、電球、ボンド、 マジック、結束バンド他)
5	役務費	3,860	保険(28円×120人) 3,360円 後払い手数料(2回分) 500円
6	委託料	88,000	電気工事
7	使用料及び賃借料	8,282	電気使用料(文化センター) 4,282円 車借用代(500円×8台) 4,000円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	187,062	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第10号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和 7年 3月31日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市佐土原町下田島20527-4
名称	広瀬北小学校区地域づくり協議会
代表者の氏名	会 長 岩 本 武 尚
電話番号	0985-73-1159

令和6年5月28日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、決算において 170,571円 の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添付資料

令和6年度収支決算(見込)書

令和 7年 5月 20日

令和6年度 広瀬北小学校区地域づくり推進委員会への意見書〔事業実施報告〕

佐土原地域自治区地域協議会
会 長 根 井 翼

令和6年度の佐土原地域自治区（広瀬北小学校）の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていたので、承認いたします。

なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

記

1 総括

計画に沿って適正な運営が図られていました。

事業実績報告書における自己評価を踏まえて、今後の事業に活かしてください。

事業の実施にあたっては、更に工夫を凝らして成果が得られるようにお願いします。

2 事業の推進体制

特にありません。

3 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

事業名	意見

4 その他